

[講演要旨] 伊賀上野地震(1854)と南山城水害(1953)の 土砂災害の比較検証

日本工営株式会社 井上 公夫, 今村 隆正, 笠原 亮一

§ 1. はじめに

安政元年六月四日(1854 年 7 月 9 日)に発生した伊賀上野地震は、 $M=7_{1/4 \pm 1/4}$ の直下型地震で、三重県上野市付近で死者 600 名余(周辺地域を含めると 1300 名余)の被害を生じた(宇佐美, 1996, 井上・今村, 1999)。また、昭和 28 年(1953)8 月 15 日には、東近畿大水害または、南山城水害と呼ばれる大水害が発生した。これらの被害分布の特徴について報告する。

§ 2. 伊賀上野地震による死者数の分布

中村・都司(2005)は関係市町村の史料を調査し、大字単位(地震時の村単位)の死者数を整理した。

図 1 は、上記のデータをもとに死者数を分布図としたものである。伊賀上野地震は木津川断層帯で発生したため、上野市北方で西南西-東北東方向に横ずれ断層が発生した。また、伊賀上野城内でも大きな被害が発生した。島ヶ原村史(1983)によれば、木津川断層帯の崖下に居住していた住民が崩壊や土石流によって多くの家屋が倒壊し、圧死した者が多かった。また、伊賀上野盆地側が沈降したため、新湖(天然ダム)が形成された。木津川の岩倉峽や笠置峽では岩石崩壊により河道閉塞された。笠置峽では現

在でも人家大の巨石が多数残っている。木津川の南に位置する笠置寺は地震後一時廃寺となった。

§ 3. 南山城水害による土砂災害

三重県伊賀上野市では、8 月 15 日午前 0 時を過ぎた頃から激しい豪雨となり、1 時間最大雨量 81mm、総雨量 287mm に達した(上野市史・自然編, 2004)。この豪雨により、木津川断層帯の急斜面地帯である上野市西山で土石流が頻発し、死者・行方不明 14 名の被害を被った。島ヶ原村史(1983)によれば、15 名の死者を出している。

§ 4. むすび

地震直撃による土砂災害と数十年後に引き起こされる豪雨による土砂災害との関係はまだ解明されていない。濃尾地震(1891)や関東地震(1923)などを含めて、これらの事例をできるだけ収集整理して、土砂災害の比較検証をしていきたい。

本報告は、近畿地方整備局(2005):紀伊半島における地震関連土砂災害検討業務(財団法人砂防・地すべり技術センター)で検討した結果の一部を発表させて頂きました。史・資料を提供して頂いた関係各位に御礼申し上げます。

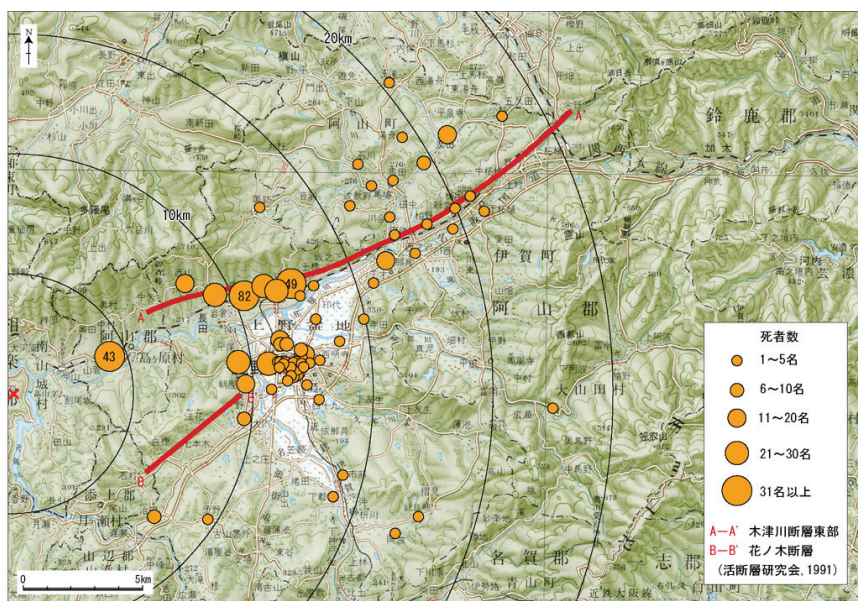


図 1. 伊賀上野地震(1854)による周辺部落の死者の分布(近畿地方整備局, 2005, 中村(2005)より作成)